

とち森の学校Ⅱ

■ 事業のねらい

森林での調査や体験活動をととして、十勝圏の森林環境への理解を深め、自分たちの住む身近な自然や環境問題に対する興味・関心を高める。



- 実施日 平成24年10月20日(土)～21日(日) 1泊2日
- 参加対象 小学3年生～中学3年生 20名
- 参加実績 参加者：20名
小2＝1名、小3＝3名、小4＝7名、小5＝6名、小6＝3名
男子＝13名、女子7名
運営協力者：大学生3名、高校生1名
- 備考 活動場所：足寄町（九州大学北海道演習林・道立足寄少年自然の家）
共催：九州大学北海道演習林・足寄町教育委員会
協力：北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会
十勝総合振興局森林室足寄事務所

1 事業実施の背景



現在、北海道を取り巻く自然環境は大きく変化し、生態系の崩れや地球温暖化などの環境問題が深刻になっている。この状況を改善するには、環境問題を正しく理解し、問題の本質を見定め、自ら進んで環境保全に取り組む資質をはぐくむことが必要であり、実際に現場を自分の足で歩き、目や耳や肌で感じ、体験してすることで、環境に対する知識や理解が深まっていく。

本事業では、十勝圏の森林環境への理解を深めるために、落葉性広葉樹の代表的なミズナラの木の成長観察をととして、自然環境への意識を高め、身近なところから環境保全について興味・関心を高めるために実施するものである。

2 プログラムデザイン

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
10/20 (土)					10:30	受付	開会式	仲良くなるう	昼へ持参	①森でドングリの成長を調査 ②樹木の種類や成長過程を観察			入室	入浴	夕食	①ドングリ種別 ②ドングリ成長観察のまとめ ③木の実クラフト ④ふりかえり	読書	就寝
10/21 (日)	起床	洗面	朝食	清掃・準備	朝読書	①ドングリの話 ②ポット苗づくり		美りの秋クッキング (たき火体験)		ふりかえり	閉会式	解散14:00						

■ アクティビティについて



■ 意図

- 演習林の豊かな自然の中で、ドングリの成長観察や森の散策などの体験活動をととして、樹木の誕生からの成長過程を理解する。
- ドングリのポット苗づくりを行い、それを持ち帰り成長を観察することで、環境保全を身近な問題として捉え、生き物や生命を大切にすることを学ぶ。

■ 留意事項

- ドングリの成長観察や森の散策では、活動場所や観察地点で危険箇所もあるため、事前の実地踏査を含め、九州大学の職員と周到な行動計画を策定した。
- 木の実クラフトやポット苗づくりに使用するドングリは、演習林で参加者自ら採取することとした。
- 演習林での活動では、森林環境に関する詳しい説明と専門的な道具を用いた観察を実施するために、九州大学の職員による直接指導とした。また、施設に戻ってからは、ミズナラの木の成長観察をまとめながら、森林環境についてふりかえりを行った。
- ドングリのポット苗づくりでは、ドングリの種類や成長について森林室の職員による講話を行い、植物の育て方に関して理解を深めた後、ドングリ植えを実施した。
- たき火体験の際には、周りに火が燃え移らないように、細心の注意を払い、火の元から終始離れないように、安全管理に務めた。

3 活動の様子



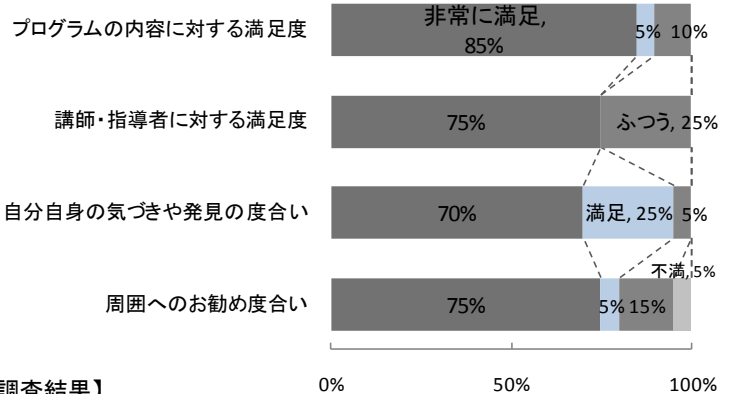
■ 当日の様子

一日目は、演習林内で九州大学の職員の指導のもと、ミズナラの木の成長観察を行い、昨年の10月に植林した1年木と28年経過した木の幹の太さや高さを比べ、成長の様子を実感していた。森の探検では、落葉性広葉樹の特徴やミズナラの木の一生などについて、説明を受けながら散策した。ドングリ拾いや土からしみ出てくる水源地の観察では、夢中になって自然について学んでいた。夜には、演習林で計測したミズナラの木の成長観察についてレポートをまとめ、森林環境についてふりかえりを行った後、ドングリを使って木の実クラフトに挑戦した。

二日目は、森林室の職員から、森林環境やドングリの実がなる木の種類、育ち方などについて講話があり、その後、再生ダンボール素材の「カミネッコン」を使ってドングリのポット苗づくりを行った。昼食は、実りの秋クッキングとして、たき火体験を行った。落ち葉や枯れ枝を使って火を起こし、たき火を囲んでさつまいもやじゃがいもを焼き、自然環境について学んだ2日間をふりかえった。

■ 参加者の声

- ドングリの木の成長観察は普段できないことなのですごくわくわくした。(小6女子)
- 森へ入って行って、ドングリをひろったことが楽しかった。(小5男子)
- 見たことのない道具を使って、ドングリの成長観察したことが心に残っています。(小6女子)
- たき火はやったことがなかったですごく楽しかった。(小3男子)
- 身近なドングリがもっと身近に感じるようになりました。ドングリを家でこれから育てるのが楽しみです。(小6男子)



4 事業評価

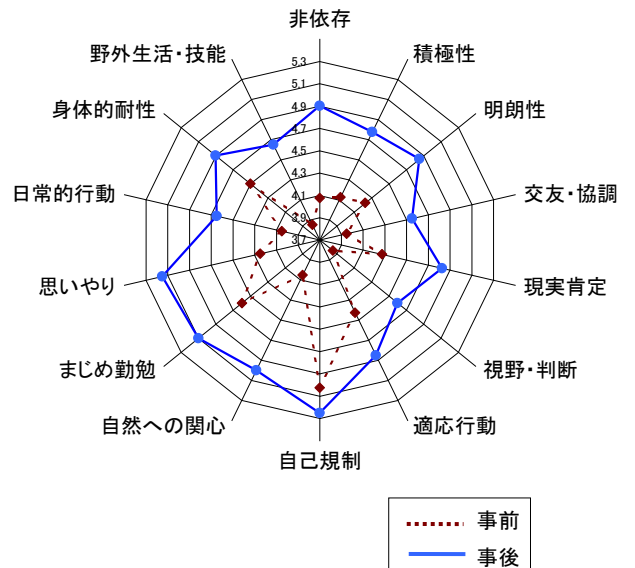


■ 参加者の変容【IKR 調査結果】

「自然への関心」については1.0ポイント、「思いやり」は0.9ポイント、「非依存」「野外生活・技能」は0.8ポイントの上昇が見られた。

■ 結果の分析・考察

演習林での活動では、参加者自らフィールドを歩き、直接、樹木や葉、ドングリなどに触れ、目や耳や肌で感じ、体験してきたことが「自然への関心」の向上につながったと考察する。また、ミズナラの木の成長観察やたき火体験では、班別活動の体制を取ったことで、それぞれの参加者が自分の役割に気づき、自ら行動していったことで連帯感が生まれた。その結果、相手を気遣う行動が多くなり「思いやり」を高めたと考える。さらに、施設での生活全般をとおして、人に頼らず自分のことを自分で行う場面が多かったために、「非依存」の上昇が見られたと考える。



5 まとめ



■ 成果

- 九州大学と森林室の連携・協力により、ドングリの誕生から樹齢150年を超えるミズナラの木までの成長過程を観察・体験できたことで、森林環境への理解を深め、身近な自然環境に対する興味・関心を高めることができた。
- 演習林でのミズナラの木の成長観察やドングリのポット苗づくり、たき火体験など野外での活動を多く取り入れた。参加者自らが実際に手で触れ、肌で感じることで、意欲的な体験活動を促進することができた。

■ 課題・今後の方向性

- 自然環境への興味・関心を高めることはできたが、環境問題に対する興味・関心までにはいたらなかった。1泊2日の短期事業においても、環境問題を正しく理解し、問題の本質を見定めて、環境保全について学んでいけるように、さらに工夫・改善が必要である。
- たき火体験では、穴を掘る場所や風の吹く向き、防火用水の設置、周囲の環境への配慮など周到な準備と、リスクマネジメントに関するスタッフの事前研修が必要である。

環境に対する気づきや環境保全に向け行動力を高めるプログラム